

令和6年度
発達障害者相談支援研修
「相談支援知識力向上研修」
実施報告

第1回東京都発達障害者支援地域協議会
令和7年2月5日(水)

社会福祉法人 正夢の会
理事長 山本あおひ

研修概要

目的：区市町村の相談支援員やサービス提供事業者に対して、発達障害児（者）支援に必要な体系的・実践的な技術の習得に係る研修を実施することにより、区市町村における発達障害児（者）の支援体制整備を推進する。

対象：区市町村等の相談支援員、放課後等デイサービス、就労継続支援等の障害福祉サービス従事職員等

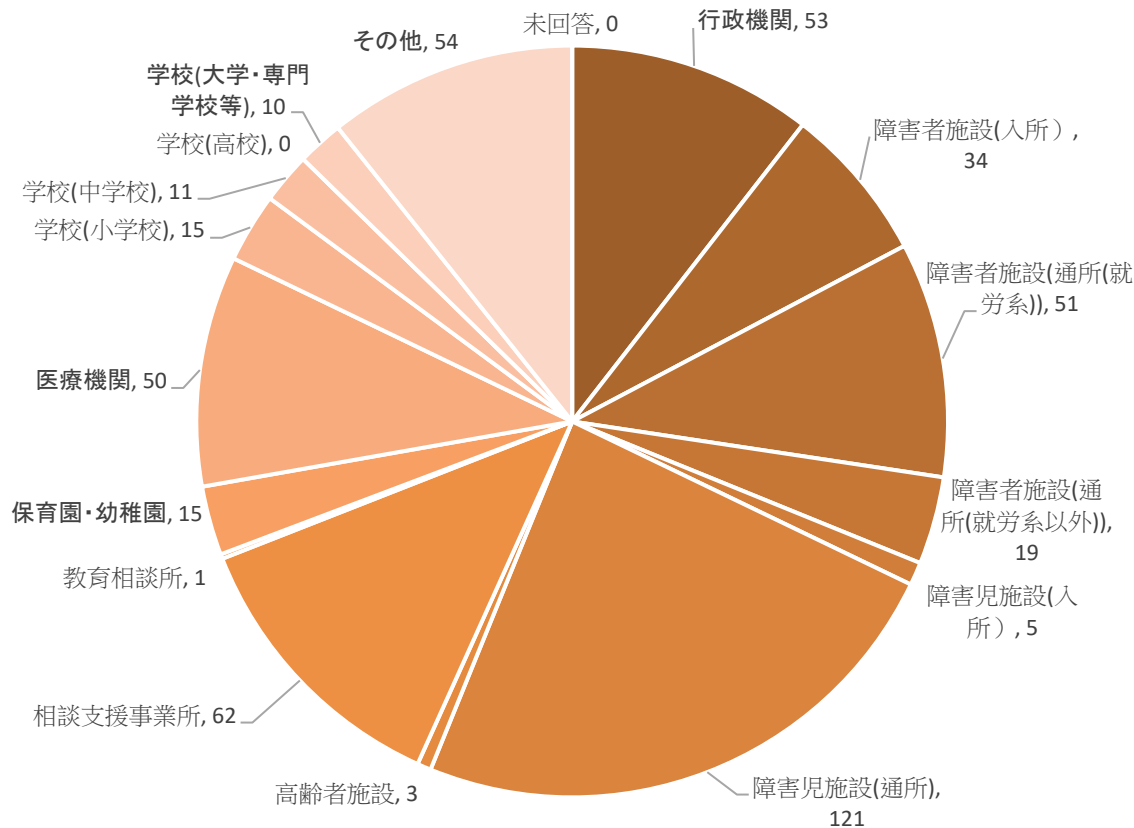
内容

	日程	応募／参加		講義内容	講師	所属
第1回	10月12日 (土)	151名中 100名 66.23%	①	発達障害の特性	市川 宏伸氏	日本発達障害ネットワーク 理事長 他
			②	自閉症の人の支援	新井 豊吉氏	東京家政大学 子ども学部 子ども支援学科 特任教授
第2回	11月9日 (土)	169名中 127名 75.15%	①	構造化	安倍 陽子氏	横浜市東部地域療育センター 公認心理師・臨床心理士
			②	ASDのコミュニケーション支援	諏訪 利明氏	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 准教授
第3回	12月7日 (土)	203名中 139名 68.47%	①	発達障害・自閉スペクトラム症の支援 ～行動障害とABAに基づいた支援～	井上 雅彦氏	鳥取大学 大学院医学系研究科 臨床心理学講座 教授
			②	発達障害の相談支援	中山 正行	正夢の会 社会福祉士・公認心理師・施設長
			③	アセスメントツールの導入 ～現場の実践から～	森 裕幸氏	埼玉学園大学 人間学部 心理学科 専任講師・公認心理師
第4回	1月11日 (土)	—	①	「それぞれの専門性を高める」 ～作業療法士の視点から～	酒井 康年氏	うめだ・あけぼの学園 作業療法士・学園長
			②	「それぞれの専門性を高める」 ～言語聴覚士及び心理士の視点から～	志村 みさと	正夢の会 言語聴覚士・副施設長
					結城 綾	正夢の会 公認心理師
第5回	2月15日 (土)	—	①	大人の発達障害 ～就労に向けての評価と実際～	梅永 雄二氏	早稲田大学 教育学部 教育心理学専修 教授
			②	発達障害のある大学生 ～学生の自立と家族の支援～	五味 洋一氏	群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 障害学生支援室長 准教授
			③	成人期デイケアにおける発達障害専門 プログラム	横井 英樹氏	昭和大学発達障害医療研究所、昭和大学付属鳥山病院 臨床心理士・公認心理師・訪問型職場適応援助者

参加者の概況(所属)

申込者数：523人 参加者数：366人 参加率：69.98%
(令和6年度実績：全5回分の第3回までの実績)

【所属別】

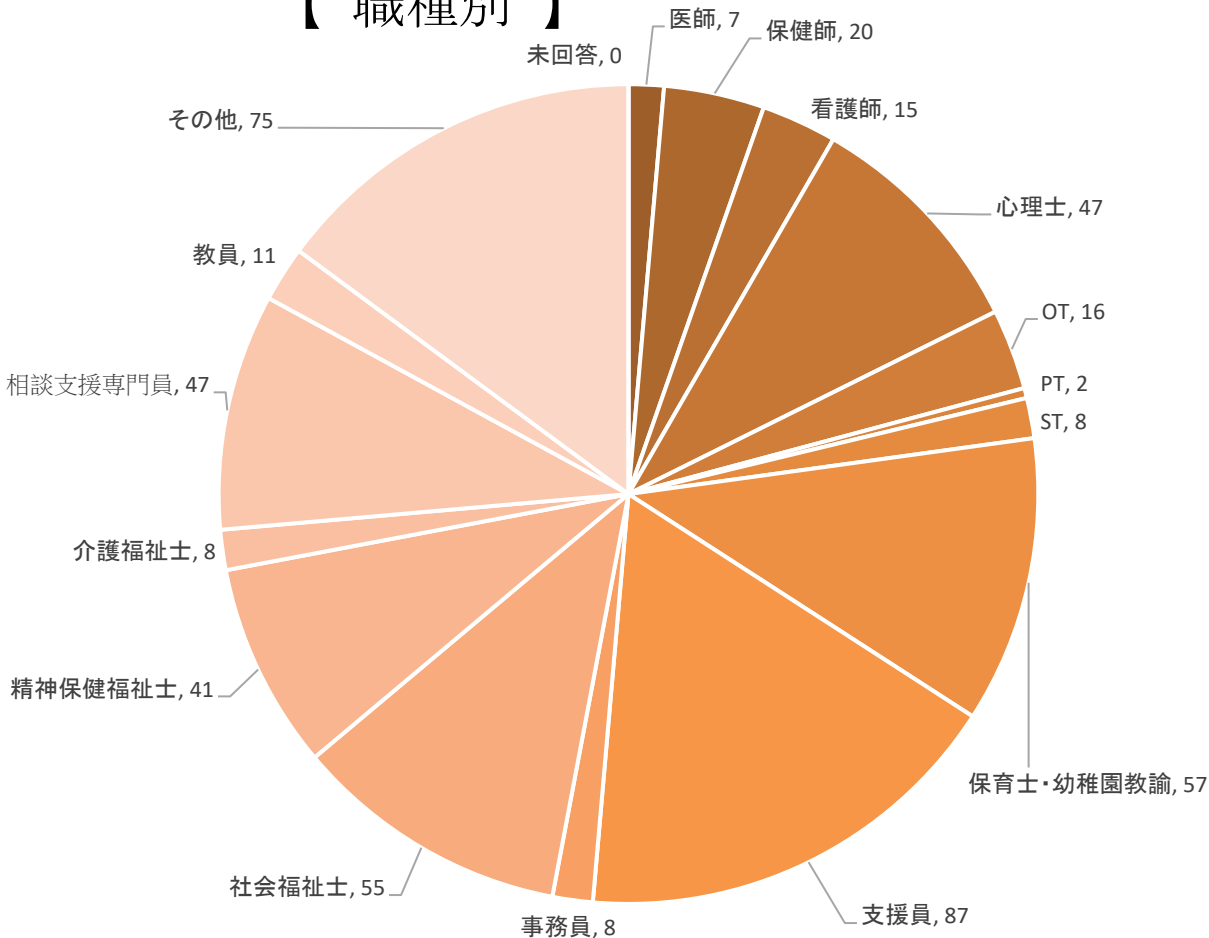


所属別	人数	割合
行政機関	53	10.52%
障害者施設(入所)	34	6.75%
障害者施設(通所(就労系))	51	10.12%
障害者施設(通所(就労系以外))	19	3.77%
障害児施設(入所)	5	0.99%
障害児施設(通所)	121	24.01%
高年齢施設	3	0.60%
相談支援事業所	62	12.30%
教育相談所	1	0.20%
保育園・幼稚園	15	2.98%
医療機関	50	9.92%
学校(小学校)	15	2.98%
学校(中学校)	11	2.18%
学校(高校)	0	0.00%
学校(大学・専門学校等)	10	1.98%
その他	54	10.71%
未回答	0	0.00%
合計	504	100.00%

参加者の概況（職種）

申込者数：523人　参加者数：366人　参加率：69.98%
（令和6年度実績：全5回分の第3回までの実績）

【 職種別 】

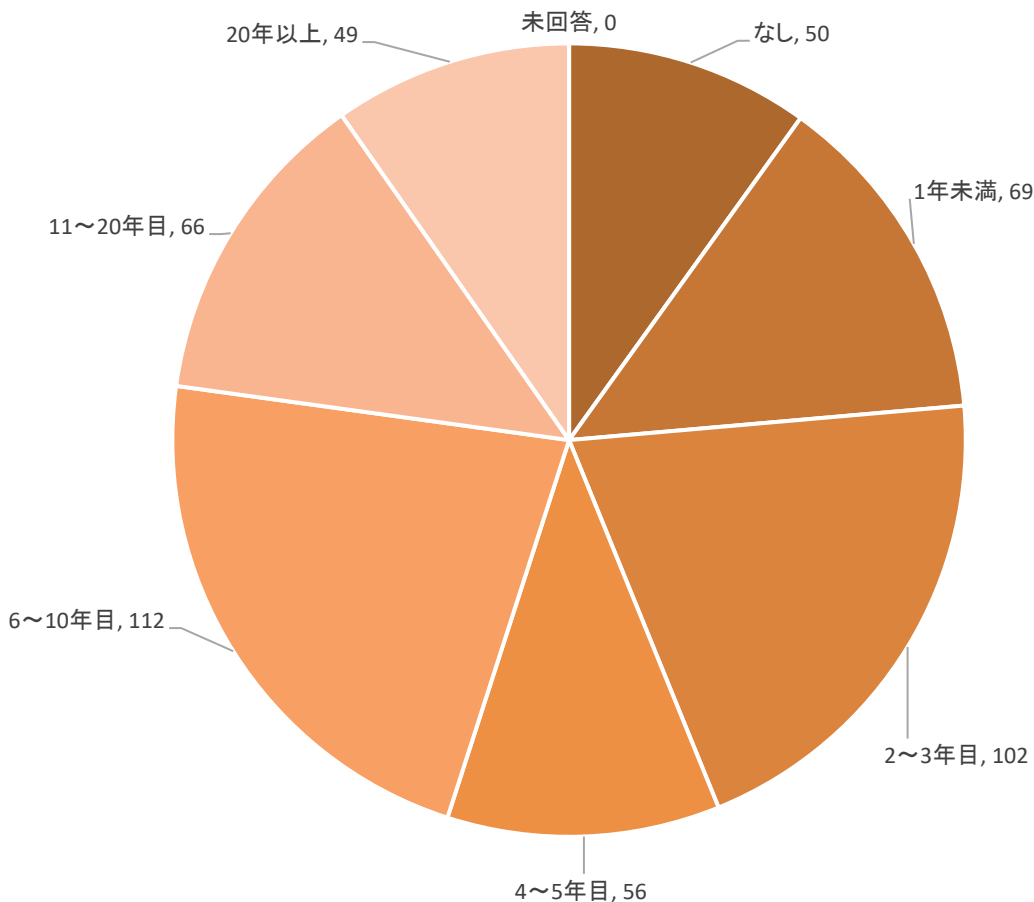


職種別	人数	割合
医師	7	1.39%
保健師	20	3.97%
看護師	15	2.98%
心理士	47	9.33%
OT	16	3.17%
PT	2	0.40%
ST	8	1.59%
保育士・幼稚園教諭	57	11.31%
支援員	87	17.26%
事務員	8	1.59%
社会福祉士	55	10.91%
精神保健福祉士	41	8.13%
介護福祉士	8	1.59%
相談支援専門員	47	9.33%
教員	11	2.18%
その他	75	14.88%
未回答	0	0.00%
合計	504	100.00%

参加者の概況（経験年数）

申込者数：523人 参加者数：366人 参加率：69.98%
（令和6年度実績：全5回分の第3回までの実績）

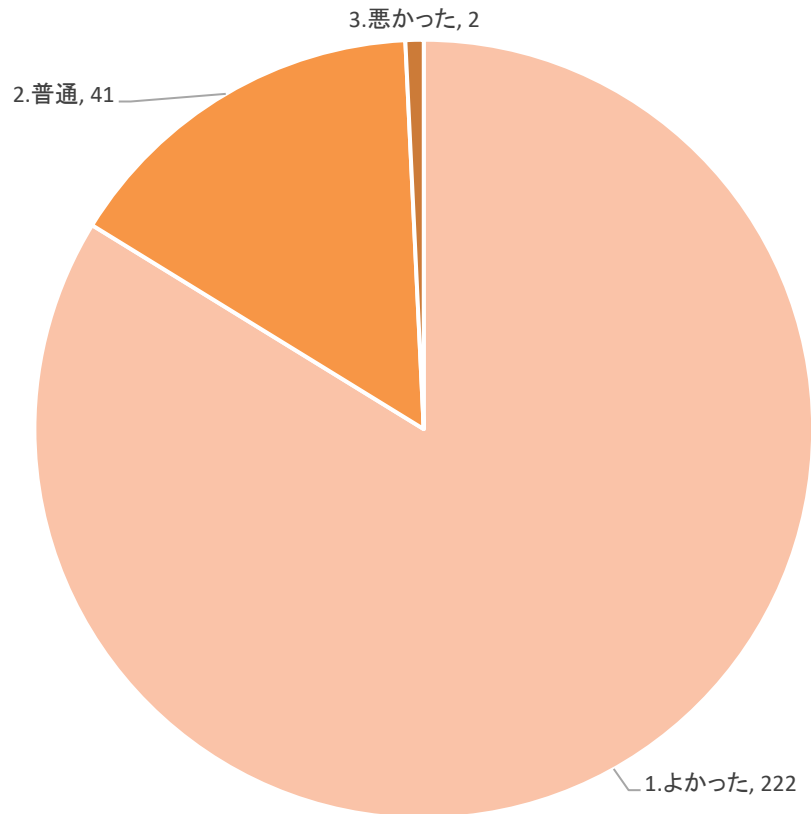
【 経験年数別 】



経験年数別	人数	割合
なし	50	9.92%
1年未満	69	13.69%
2～3年目	102	20.24%
4～5年目	56	11.11%
6～10年目	112	22.22%
11～20年目	66	13.10%
20年以上	49	9.72%
未回答	0	0.00%
合計	504	100.00%

参加者の概況（オンラインについて）

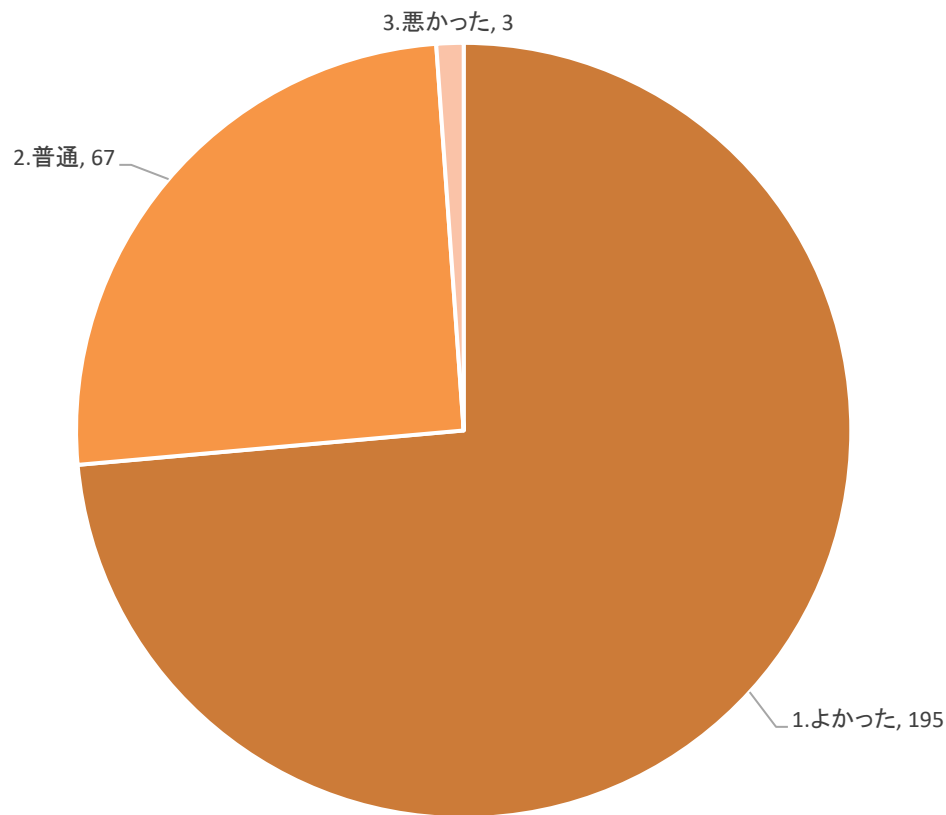
申込者数：523人 参加者数：366人 参加率：69.98%
（令和6年度実績：全5回分の第3回までの実績）



評価	人数	割合
1.よかった	222	83.77%
2.普通	41	15.47%
3.悪かった	2	0.75%
合計	265	100.00%

参加者の概況（実施時期・日程）

申込者数：523人 参加者数：366人 参加率：69.98%
（令和6年度実績：全5回分の第3回までの実績）



評価	人数	割合
1.よかった	195	73.58%
2.普通	67	25.28%
3.悪かった	3	1.13%
合計	265	100.00%

アンケート結果

① 「発達障害の特性」 市川 宏伸 氏

- 障害者に関する法律整備から携わり、今日の障害者支援に対する基本的で重要な考え方を教えてくださり、ありがとうございました。まだまだ、現場では障害者支援についてすそ野が広がっていないと感じるところもありますが、今後も続けてこの分野に努めていきたいと思っております。
- 発達障害の理解や法令がまだ歴史も浅く、やっと認知されたという事を知りました。それから、感覚過敏の大変さも改めて知りました。市川先生の知見の○×の表が何故かスッと腑に落ち発達障害はとても広いと最初におっしゃる通りだなと自分なりに理解できました。ありがとうございました。
- 市川先生が実践されてこられた歴史がネットワークを作り立法化して現場に降りてきてそれを私たち現場で実践するか、正しく理解して対象者と向き合うことができるかで対象者の生活が変わる一步になることがわかりました。現在自分が計画相談員として、対象となる方々やお子様の計画を作る際に、その対象者に合った計画という点で振り返りが必要であることがわかりました。今後の相談員としての対応に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- 発達障害者支援法発令までの経過と各制度の位置づけが知れてよかった。マイナスイメージだけでなくプラスイメージを大事にしていきたい。ただ、何か事件が起きるたびにマスメディアは発達障害を挙げることが多く、その生活歴も大変で二次障がい強いパターンが多い気がする。居場所や安心感が必要だと思いました。
- 発達障害は特性であり、生きにくさや生きづらさの多くは環境調整や対応により改善される。薬物治療は二次的課題（抑うつ、不安、依存など）が中心とのことでした。しかし子どもの場合はどちらかと言えば環境調整以前に本人の特性である多動・衝動性を服薬で抑え、学校の授業時間におとなしく座っていられる状態像を求めているケースが多いように思われます。特別支援学校と違って、通常の学校では障がい特性に合った環境調整の必要性への理解がまだ浸透していないように感じます。「注意してはいけない。納得できる注意を工夫する。本人の立場に置き換えて説明する。」を日々の支援の中で実行していきたいと思っております。

アンケート結果

② 「自閉症の人の支援」 新井 豊吉 氏

- あらためて自閉症について知ること、普通に寄せる事ではないその人に合わせた支援ができるのだと思いました。またベースの考えとして、懲罰的に支援者の考える社会に合うようにするのではなく、一人一人自律的にストレスが少なく過ごせるようにするための支援が必要であるということを再確認できました。最初は自閉症の方が楽しんでできるように考えられたシステムでも、支援を続けるうちにこれをしなければならないというような考え方になってしまいがちであると自分自身を顧みて思うので、そこは支援員自身がベースとなる考えを大切にして一つ一つの支援の決定をしていかなければならないのだと思いました。また、実際の支援を行っている様子を知ることができ、今までよくわからなかった部分のイメージをすることができました。
- レジュメも見やすく、話しの順序もわかりやすかったのですごく理解しやすかったです。現場では、合理的配慮をしなければいけないとわかっていても、どのような支援が合理的配慮なのかということを難しく考えてしまっていたが、先生の話聞いて本人が必要としていて主体的に行動できる支援は全て合理的配慮なのだ気づきました。障害の特性理解だけでなく、一人ひとりをより理解し適切な支援に繋げていきたいと思いました。
- PECSをバインダーと文カードを用いて手作りされていたのをみて早速真似しようと思いました。エデュケーショナル・マルトリートメントについても学べ、自分自身のお子さんとの関わりについて振り返ると、先輩がこうやっていたから・・・と、言葉だけで伝えようとしている場面が多かったと気づきました。ASDのお子さん一人一人に合わせた支援ができるように学び、実践例を取り入れてより良い関わりができるよう努めてまいります。
- 私自身も問題行動という言葉は嫌で「課題行動」と表現してきました。「より強く自分の辛さを訴えている人」というとらえ方を常に忘れてはいけないと感じました。彼らが私たちに対して提起しているという意味で「チャレンジング行動」「問題提起行動」も今後は使っていきたいと思います。最も行動障害が重篤であった時期の度数分布のグラフは子どもたちの支援者として知っておくと対応が変えられると感じました。「特性はもっとも配慮され、大切にされるべきもの」として支援にあたりたいと思います。言葉中心の授業の事例は大変参考になりました。言葉ではなくルーティンで覚えているかも？とは考えていなかったのも、子どもたちの的確なアセスメントが重要と感じました。「たくさんの指示や誘導は徐々にストレスをため込んでいく」ことを支援するものとして意識しておきたいと思います。
- お話がとても聞きやすく、大変理解しやすかったです。ASDの特性を理解し、配慮した支援を具体的に動画で見られたことなど、とても勉強になりました。そして、1番良かったのは、新井先生の生徒さんおひとりおひとりを大切に尊重し寄り添う心が伝わってきて、そのお気持ちが個々の特性にあった支援をこのように作りあげて来られたのだなと感動した事です。自分も彼らの文化を尊重する支援が出来る人になりたいと思いました。

アンケート結果

③ 「構造化」 安倍 陽子 氏

- 構造化についてあまり見識がなかったのですが、具体的な場面を色々ご説明いただき、勉強になりました。ご本人に合う環境はどんなものなのか？よく観察しながら支援を行っていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 構造化といったものに対して漠然とした認識で分かった気持ちになっていたが、今回の講義でより具体的に理解できたように思います。特に実際の現場の写真とスライドを組み合わせで講義されていたので、イメージしやすく大変わかりやすかったです。
- 支援側の良かれとしたことが自閉症の方には苦痛だったり忤決めをしてしまったりして本人の意思決定に背くのではないかと決まり事を作らず本人の意思を求めていますがある程度自閉症の方は知的障害とは違いもっと特性を理解しないといけないと思いました。
- 構造化について理解することができました。スライドもわかりやすく、実践に繋げられる内容が多くやってみたいと思える内容でした。また、先生の実践経験のなかで踵おとしなどしてしまって大変だった方が落ち着いたのですよ、どんなお子さんも成長していく、ということを学びましたと語られていたのが印象的でした。長く働くことで、そんな場面に出会えるかもしれないと、楽しみにになりました。
- わかりやすく写真やエピソードなども聞かせていただき大変勉強になりました。
- 久しぶりの研修内容は初心にかえる気持ちでした。ひとつひとつそうだな、と確認するように聴講しました。地図を持たずに歩いている気持ちで業務にあたっている節が自分でも分かり、インプットしたことをアウトプットして、きちんと理解したいと思いました。
- 支援側の良かれとしたことが自閉症の方には苦痛だったり忤決めをしてしまったりして本人の意思決定に背くのではないかと決まり事を作らず本人の意思を求めていますがある程度自閉症の方は知的障害とは違いもっと特性を理解しないといけないと思いました。

アンケート結果

④ 「ASDのコミュニケーション支援」 諏訪 利明氏

- コミュニケーションの仕方が多岐にわたることや、コミュニケーションやTEACCHプログラムが時代により発展していることを再認識できました。そしてコミュニケーション要約用紙を使用することにより、問題点が出てくると感じました。今後療育で使用してみます。先生がとても安心感があるお話の仕方でもとても良かったです。何を考えて、何を感じているか、思っていることと、発する言葉は違うという点から正しい言い方を学ぶことは、グループワークでやっても楽しいかなと思いました。ありがとうございました。
- ASDの強みを知る中で、どう支援に繋げていけば良いか、たくさん方法を学ぶ事ができました。また、表現と理解という、人とのやり取りをする中で、無意識のうちに役割を交代している事を感じ、改めてその人その人に合った段階を考えながら、コミュニケーションの方法を伝えていきたいと思いました。
- ボリュームが多かったことと、説明に使われている言葉が専門的なものが多かったので、私にはストンと頭に落ちないところがありました。
- 難しかった。はじめ先生の語り口調が優しく聞きやすくてよかったと思ったのですが、内容のレジュメとお話を必死に理解しようとしたのですが、社会的プラグマティクスの辺りから、内容が盛りだくさんすぎて理解できなかったです。
- 現在就労支援で大人の自閉症の方の支援を行っていますが、もっと早く知りたかった内容ばかりで、大変勉強になりました。支援している自閉症の方もコミュニケーションで困っていることが多いのですが、コミュニケーションのあれこれは具体的に言葉で説明していくのが難しく、悩むことが多くありました。今回コミュニケーションについて、どう伝えていくか？をかなり言語化して説明していただき、自分の中でぼんやりしていたものも整理することができました。ついできないことに目を向けがちですが、その方のできることを強めていくことも、改めて行っていきたいと思いました。サンプリング、文脈✕機能✕形態、目標設定、という方法も大変勉強になりました。明日からの支援で生かしていきます。お人柄の伝わる講義も楽しかったです。ありがとうございました。
- 自閉症の子が何を考えているのか少し見た気がします。放課後等デイサービスに勤務していますが、個別支援計画のモニタリングの時にサンプリングの表を作り見ていく方法も勉強になりました。策定会議のみで話し合うだけだと短期目標や長期目標が決めづらいときもあるので参考にしたいと思います。
- サンプリング等の説明において、適切なやり方・考え方だけでなく、不適切なものも挙げてくださったのがありがたかった。

アンケート結果

⑤「発達障害・自閉スペクトラム症の支援～行動障害とABAに基づいた支援～」

井上 雅彦 氏

- 行動を具体化する事によって間違った選択、アプローチを避ける事ができ、その子にも良い影響を与えることが理解できました。
- 評価スケールの使い方や、改めて半構造化面接の意義、また、ウェブアプリの紹介や、さらに先生作成のシートも活用可能で、とても有意義に研修でした。そして、井上先生の声も聞きやすく、語りかけるような語りで、集中して受けることができました。大変ありがとうございました。
- ケースをもとに説明を頂き、理解しやすかったです。資料が見やすく、研修後に復習しやすいです。大事にします。
- 「行動分析学」についてとても興味を持つ内容でした。自分が過去に施設で関わってきた子どもたちにできていなかった根拠のある支援が、この行動分析学を意識しながら支援することで、自信を持って支援が行えるのではないかと思いました。もっと深く知りたいと感じましたので、またぜひ研修に参加させていただきたいです。
- 不適切行動の前後を観察し、事前に環境を変え、お子さんの行動を望ましい手段や代替手段に切り替えていく事を学びました。また、お子さんの観察からどの時間帯にどれぐらいの頻度で行われているかなどの事実の把握も大切な事を学びました。今後の研修もある事なので参加できればと思いました。
- 代替行動への支援は支援者でよく話し合い、実現していきたいと思いました。余暇支援やコミュニケーション支援、指示に従う行動、セルフコントロールなど自己決定の機会を増やすことなど。勉強になりました。強度行動障害者とならないような幼児期からの予防的な支援があるのかもと考えます。
- 行動の弱化・消去の難しさを日頃痛感しております。それらを行う場合は、代替えのコミュニケーションを提示することを学ばせていただきました。また、問題行動は場面や個人の感覚によって異なるという点に関して、気づきを促していただきました。チームアプローチに取り入れていきたいと思いました。
- 応用行動分析に興味があったため、すごく参考になりました。変わった行動やこだわりは全て問題？という言葉がすごく響き、改めて自分の考え方など振り返ることが出来ました。また、行動の機能アセスメントの方法でWEBアプリを使える等、知らないことを教えていただければ今後の支援で活用していければと思いました。

アンケート結果

⑥ 「発達障害の相談支援」 中山 正行

- 自己理解を促し、生きやすい環境に整えるというまとめの部分に、相談支援の目的が明確になった感じがした。興味ある部分は未就学から学齢児だったが、その先の事例もあったことで、連続性（支援のつなぎ）を意識した支援の重要性を改めて感じる事ができた。
- ライフステージや、その方の特性に応じたアセスメントツールの話が参考になった。今、高校生の支援をしているので、思春期については特に参考になった。
- 幼児期、児童期、思春期・青年期、成人期それぞれわかりやすかったです。特に成人期で就職してから周囲の人がかかわることにストレス状態でも本人が相談に行く気配がないときに、周囲はどのように対応したらよいのか困っているケースを聞くと、早めに家族が対応出来たらいいのになあと考えながら受講していました。
- 発達障害といっても、年代によってニーズや求められる支援、対応が本当に様々であることがとても分かりやすかったです。私は大人の発達障害の方の支援を行っていますが、以前はどんなニーズや対応が必要だったのか、行われていたのか知ることができて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 相談支援の中でいろいろな検査ツールを活用して支援の計画を立てていることに驚きました。検査ツールを活用することでその方の困り感など支援する側も分かりやすかったです。
- ライフステージごとの相談事例がとても参考になりました。検査や面談を実施して個別の相談に応じる発達相談支援の役割について理解しました。
- 恥ずかしながら、さまざまな検査があるのは知っていましたが、検査とスクリーニングの明確な違いを理解することが出来ました。また、豊富な事例や、スマホ依存やそれによる学習継続の困難さの解説も、発達障害への理解を深めることに役立ちました。
- 成長段階別の支援内容とその成果がとてもわかりやすかったです。

アンケート結果

⑦ 「アセスメントツールの導入～現場の実践から～」 森 裕幸 氏

- アセスメントツールの実際の利用場面が知れて、大変勉強になった。身近では多くのアセスメントツールを使える相談機関はなく、医療機関資源も少ない地域であるため、十分なアセスメントができていないのが実情ですが、適切なアセスメントとその結果を支援に結び付けること、また早期支援の重要性をもっと地域に浸透させていきたいと思った。
- どのようなアセスメントツールを活用していけると良いか検討している部分もあったため、詳しく知ることができて良かった。どのアセスメントツールもそれぞれの障害や特性についての理解があった上で活用できるものだと思うので、今後も理解を深めていきたいと感じた。他のアセスメントツールに関しても学べる機会があると嬉しい。
- 報告書の書き方例が参考になった。また、職場での当事者の不適応は、「社会的要求が本人の能力を超えているから」➡よって環境調整を行うことで解決に向かうという言葉に、そうだよな、そういうものだよなと思い、早速、現場で活かしていきたいです。
- アセスメントツールの導入についてのテーマではアセスメントにより客観的に対象者の特性を把握し、適切な支援方法の選択につながれるという事がわかりました。また、インフォーマルなアセスメントも行う事で、より生活に密着した詳細な情報が得られる事もわかりました。現在、心理職などのアセスメントのできる人材が居ない為、アセスメントについて学び、日々の支援の場で役立てられるようにしていきたいと思いました。
- 自閉症は多様であるからこそ、様々なアセスメントツールを組み合わせる必要があるということを知りました。特に幼児期と現在の評定を出す仕組みは印象に残りました。本人や保護者の言葉を引き出していく点において難易度が高そうだと感じました。
- 早期発見の重要性を改めて理解できた。残念なことに私が接する発達障害の方は、早期発見が難しかった方達となるが、生育歴をよく聞き取る必要性は強く感じた。テストバッテリーの重要性も留意して医療従事者との連携が出来る支援者になりたい。

令和6年度 医療機関等向け講習会 実施報告

第1回東京都発達障害者支援地域協議会
令和7年2月5日(水)

社会福祉法人 正夢の会
理事長 山本あおひ

研修概要

目的：発達障害児（者）への対応に係る講習会を実施することにより、発達障害に対応可能な医療機関の確保を図り、発達障害児（者）への支援を担う人材を育成する。

対象：医療機関・保健センター等の医療従事者等

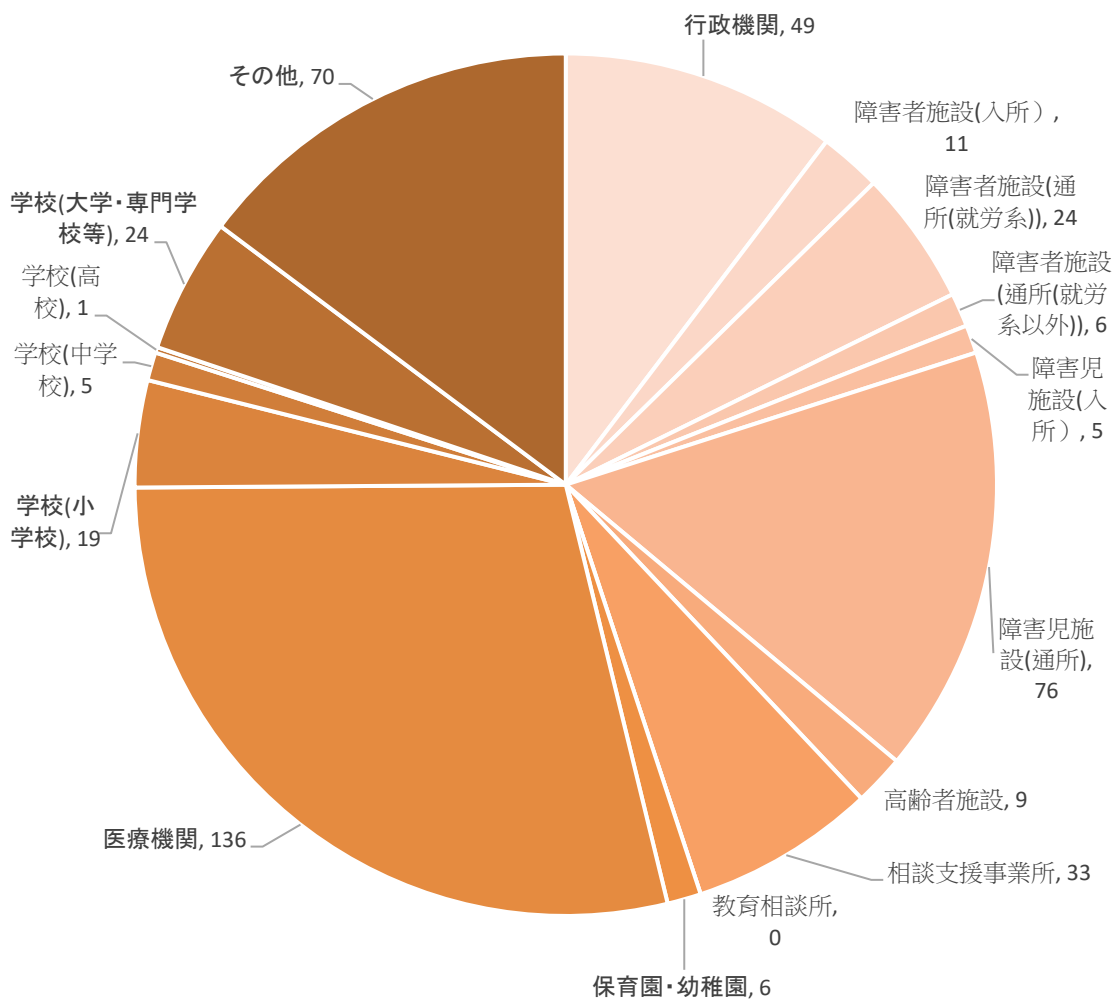
内容

	日程	応募／参加		講義内容	講師	所属
第1回	9月8日 (日)	86名中 65名 75.58%	①	発達障害と引きこもり	近藤 直司氏	大正大学 名誉教授
			②	発達障害と強度行動障害	會田 千重氏	独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター 統括診療部長
第2回	9月29日 (日)	96名中 61名 63.54%	①	発達障害と生物学的背景	宇野 洋太氏	よこはま発達クリニック 副院長
			②	発達障害アラカルト	市川 宏伸氏	日本発達障害ネットワーク 理事長 他
第3回	10月20日 (日)	122名中 78名 63.93%	①	成人発達障害と医療	柏 淳氏	ハートクリニック横浜 院長
			②	発達障害と地域連携	本田 秀夫氏	信州大学 医学部 子どものこころの発達医学教室 教授
第4回	11月17日 (日)	92名 52名 56.52%	①	発達障害と司法	安藤 久美子氏	東京医科歯科大学 学生支援・保健管理機構 准教授
			②	発達障害とその周辺	藤堂 栄子氏	NPO法人EDGE 会長
第5回	12月22日 (日)	78名 44名 56.41%	①	発達障害と二次障害	成田 秀幸氏	国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 診療所 診療所長
			②	発達障害と当事者	尾崎 ミオ氏 ソルト氏	東京都自閉症協会 副理事長 他 個人
第6回	1月28日 (日)	—	①	発達障害と教育	星山 麻木氏	明星大学 教育学部 教育学科 教授
			②	発達障害と行政	菊地 章人	東京都福祉局 障害者医療担当部長

参加者の概況(所属)

申込者数：474人 参加者数：300人 参加率：63.29%
(令和6年度実績：全6回分の第5回までの実績)

【所属別】

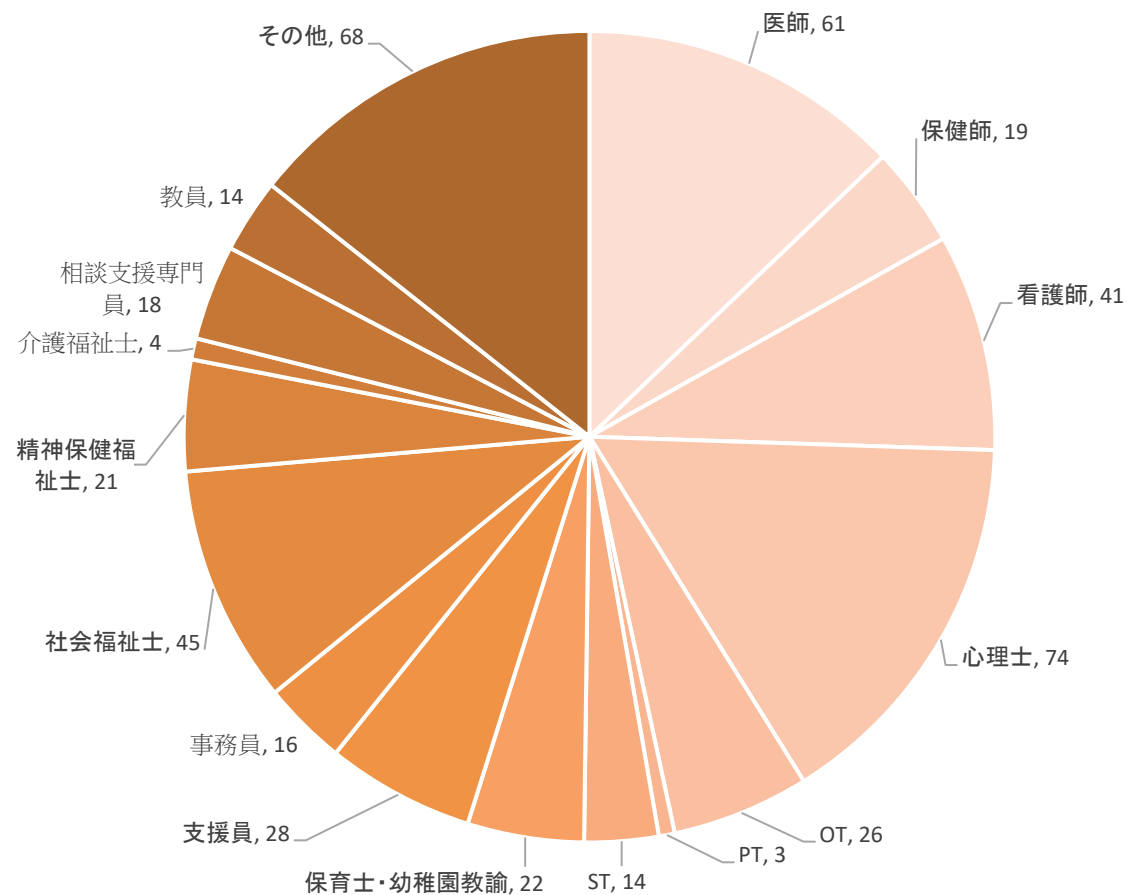


所属別	人数	割合
行政機関	49	10.34%
障害者施設(入所)	11	2.32%
障害者施設(通所(就労系))	24	5.06%
障害者施設(通所(就労系以外))	6	1.27%
障害児施設(入所)	5	1.05%
障害児施設(通所)	76	16.03%
高齢者施設	9	1.90%
相談支援事業所	33	6.96%
教育相談所	0	0.00%
保育園・幼稚園	6	1.27%
医療機関	136	28.69%
学校(小学校)	19	4.01%
学校(中学校)	5	1.05%
学校(高校)	1	0.21%
学校(大学・専門学校等)	24	5.06%
その他	70	14.77%
合計	474	100.00%

参加者の概況（職種）

申込者数：474人　参加者数：300人　参加率：63.29%
（令和6年度実績：全6回分の第5回までの実績）

【 職種別 】

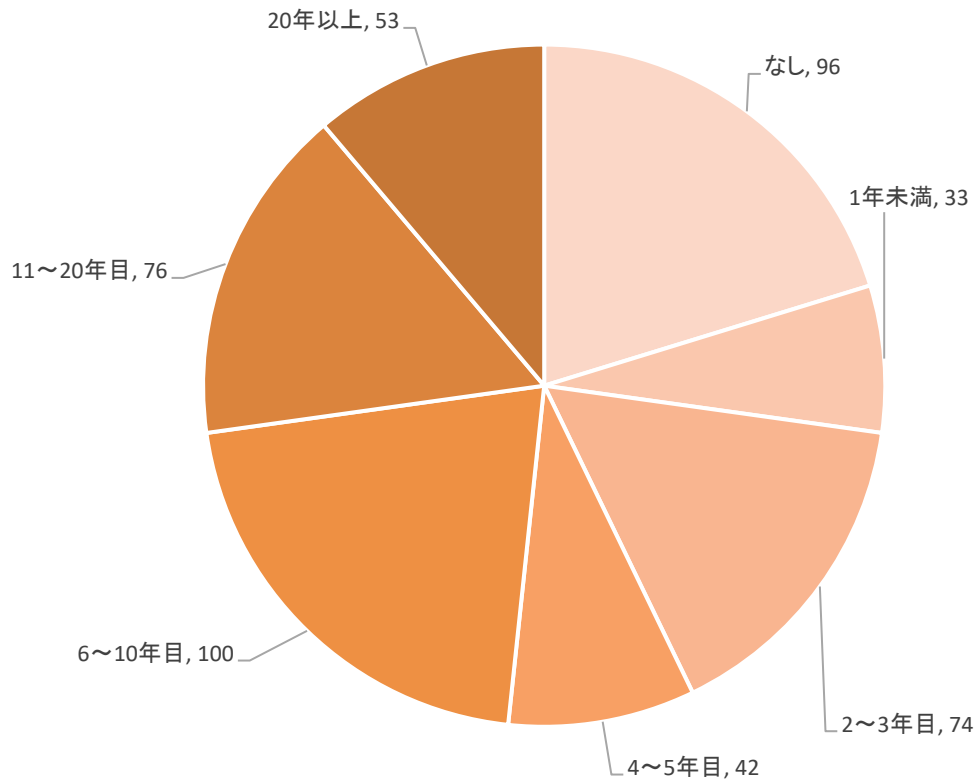


職種別	人数	割合
医師	61	12.87%
保健師	19	4.01%
看護師	41	8.65%
心理士	74	15.61%
OT	26	5.49%
PT	3	0.63%
ST	14	2.95%
保育士・幼稚園教諭	22	4.64%
支援員	28	5.91%
事務員	16	3.38%
社会福祉士	45	9.49%
精神保健福祉士	21	4.43%
介護福祉士	4	0.84%
相談支援専門員	18	3.80%
教員	14	2.95%
その他	68	14.35%
合計	474	100.00%

参加者の概況（経験年数）

申込者数：474人 参加者数：300人 参加率：63.29%
（令和6年度実績：全6回分の第5回までの実績）

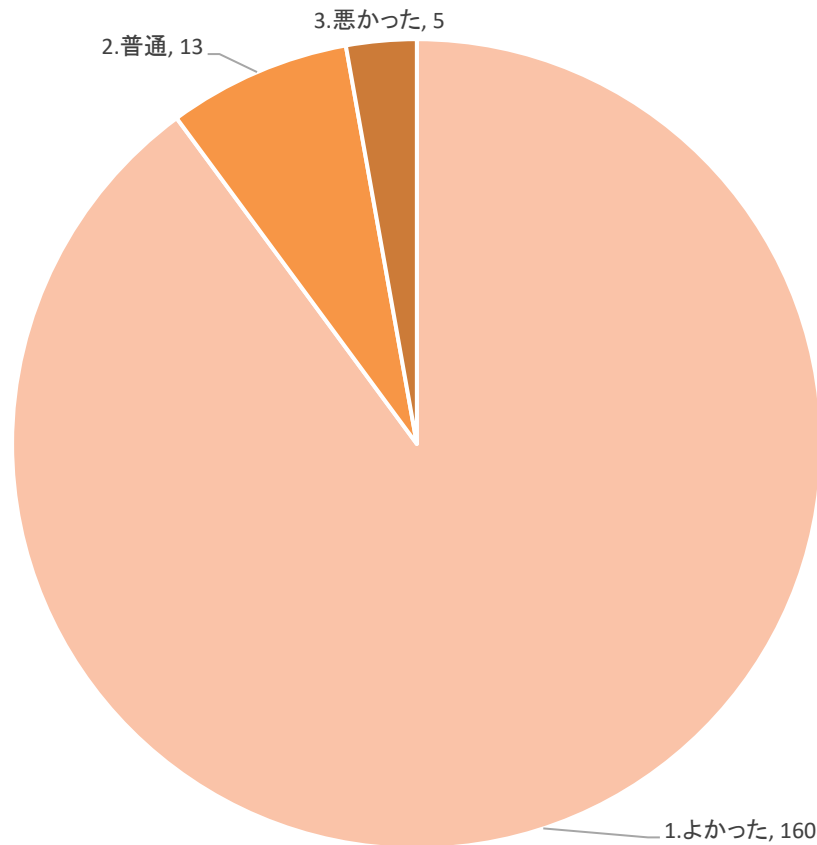
【 経験年数別 】



経験年数別	人数	割合
なし	96	20.25%
1年未満	33	6.96%
2～3年目	74	15.61%
4～5年目	42	8.86%
6～10年目	100	21.10%
11～20年目	76	16.03%
20年以上	53	11.18%
合計	474	100.00%

参加者の概況（オンラインについて）

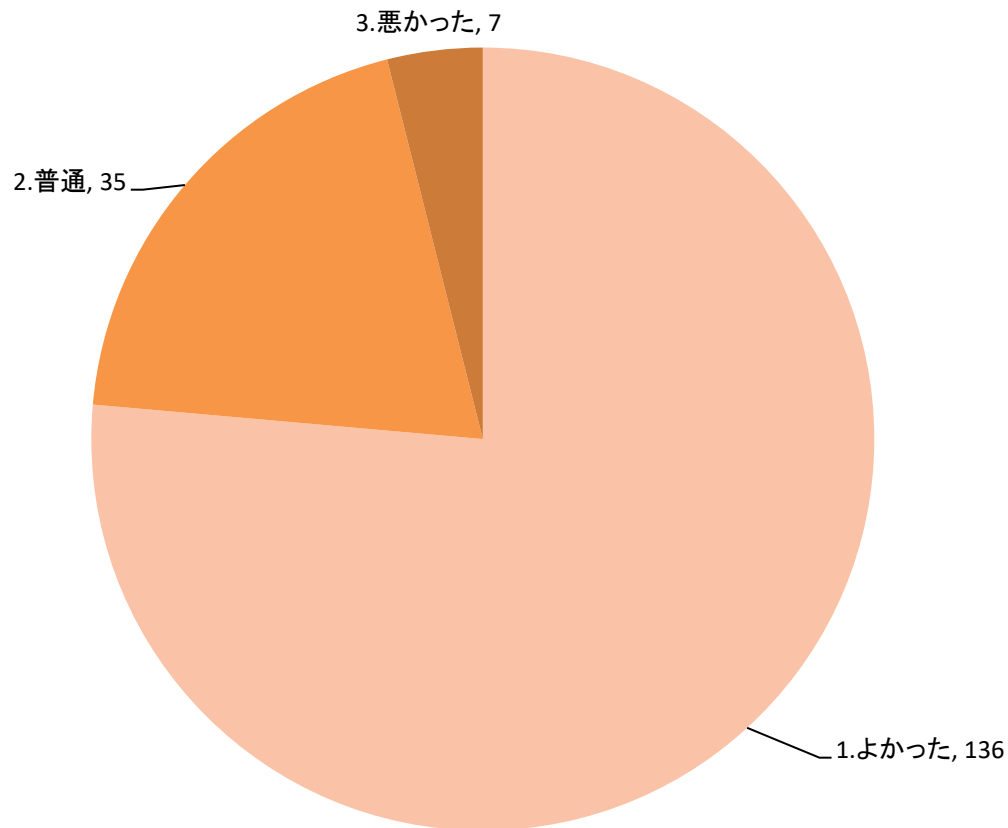
申込者数：474人　参加者数：300人　参加率：63.29%
（令和6年度実績：全6回分の第5回までの実績）



評価	人数	割合
1.よかった	160	89.89%
2.普通	13	7.30%
3.悪かった	5	2.81%
合計	178	100.00%

参加者の概況（実施時期・日程）

申込者数：474人　参加者数：300人　参加率：63.29%
（令和6年度実績：全6回分の第5回までの実績）



評価	人数	割合
1.よかった	136	76.40%
2.普通	35	19.66%
3.悪かった	7	3.93%
合計	178	100.00%

アンケート結果

① 「発達障害と引きこもり」 近藤 直司氏

- 安定したアタッチメント形成やアイデンティティについて学びなおせた。また、知能検査などから本人に診断名をすぐ伝え、自己理解を促すのはどうかという言葉に事故への課題でもあると考えさせられる
- 「ひきこもり」調査に基づいた実態像、アイデンティティとアタッチメント、発達障害との関連性、保護者への支援、予防など、全体的に根拠と説得性のある内容で、今後の支援に役立てたいと思えた。
- 乳幼児検診の心理職です。焦らない診断という言葉がその通りだと思いました。なるべく早い判断支援という風潮、あまり変わらない分離教育体制が、ゆっくりとした子育てを阻害しているように思えます。お子さんへの理解、環境調整、子育てへの安心がお子さんになりより大切である事を少しでも早く、大きくアナウンスしてほしいです。
- 解りやすい言葉で、事例や動画も交えてくださり医療従事者でなくても理解しやすかったです。放課後等デイサービスにも同様な問題を抱えている子供が来所しているので、今日のお話を生かしていきます。
- 発達特性という視野狭窄は確かに陥りがちだと感じました。安易な診断・告知をするのではなく、心の土台を育む支援をしていけたらいいと思います。

アンケート結果

② 「発達障害と強度行動障害」 會田 千重氏

- 地域の重度知的障害者のデイサービスの医療（内科として）を数年前から担当していますが、この度の研修会で目からうろこ状態でした。大変参考になりました。
- 行動障害の対応に悩んでいましたが、豊富な臨床経験からくる様々なものが大変参考になりました。行動の結果は何かのトリガーがある事。実態もよく解りました。
- 精神科病院に勤めているので、入院が長期化しないための対応や、環境と行動の拡大をしていく、という話はとても納得でした。私はOTなので常に行動拡大を提案する側ですが、病院ではどうしても何か問題が起こるたびに行動制限、身体拘束になります。いつまでたっても退院できない患者さんが一定数いる現状を変えたいと思いますが、なかなか変わりません。
- 會田先生には前回も教えて頂きました。精神科病棟、強度行動障害の一見激しい行動の見たまを直訳せず、その方の表現とみる視点の大切さを感じました。また、有効な内服薬などエビデンス情報も使い、今わかっている事、出来る事、そしてまずは知る事が重要であると感じました。
- 強度行動障害の支援について、薬物治療も場合によっては使用するものの、行動療法がとても重要になる事が解りました。また、から見通しや構造化という日頃からできる支援の例も大変参考になりました。

アンケート結果

③ 「発達障害と生物学的背景」 宇野 洋太氏

- 歴史的背景から、発達障害がどう理解されていったのかがよく解りました。様々な研究が行われていき、今のようになってきたため、データやエビデンスに基づいた支援を行っていくようにしたいです。
- 歴史的な内容から最新の情報も含め、大変解り易かったです。環境要因に関する話は、保護者とのやり取りの中でもよく出てくる内容で、エビデンスに基づき解説して頂き大変勉強になりました。時間が短く感じました。
- 自閉症概念がどのように形作られてきたか、発症要因がどのように考えられてきたか、流れの要点を抑える事が出来ました。最近全く別の場で、周囲の理解が乏しい時代に苦勞して発達障害児の子育てをした方のお話に接したことがあったのですが、その背景としてリンクする内容だったので、タイミングよく知識が增強されたような気がしました。欲を言えば後半のASDの神経心理学的モデルについてもっと詳しく聞きたかったです。
- 遺伝子的要因や環境要因、両親の年齢や母体の治療などとの関係要因などの原因については理解が深まった。本人と家族が、幸せを感じる環境づくりこそが大事だと感じました。ASDの認知スタイル以降の説明をもっと深く学びたかったです。
- 発症の要因について、誤った情報も広まりやすい中で、本日は科学的根拠に基づく正しい情報を学ぶ事ができ大変勉強になりました。また、感覚過敏に対する対応では、不安を取り除く事で感覚過敏を減らせると仰っていましたが、成人の精神科においても不安などの感情が影響を与えるものは多いのではないかと考えるきっかけになりました。心にアプローチする事で、感覚過敏に限らず、その他の症状や不調感も和らぐなど、作業療法士として実践できるのではないかと思います。

アンケート結果

④ 「発達障害アラカルト」 市川 宏伸氏

- 発達障害法令等の歴史、発達障害とは、薬物治療について全てとても解りやすいお言葉と先生ご自身のエピソードを交えてお話しくださったので、あっという間に時間が過ぎました。支援者として特に最後の「発達障害の対応、支援」の部分は心に刺さりました。もっとお話が聞きたいので、是非また機会があれば嬉しいです。
- 講義を拝聴し、発達障害児支援に対する先生の熱い想いを感じました。日頃療育センターの外来で発達障害児の支援を担っていますが、最後に「発達障害児の支援とは」と示してくださった内容は、子ども達が在籍する小学校や幼稚園・保育園と連携を取る際、心にとどめておくべきものと思いました。
- 発達障害者支援法や障害者を取り巻く社会の状況がどのように変わってきたのか、実際に法の成立に関わったいわば生き証人であるような方のお話でした。これまで、今どきの障害観には小さな疑問や引っ掛かりを覚える事もありましたが、それが形作られるまでの歴史や経緯に触れる事で、なぜ今このようになっているのか、自分の中で整理してみる事が出来ました。現状だけで切り取ってみるのではなく、歴史的背景を知る事も大切だと気づかされました。
- 「薬物が作用して症状が軽減している間に適切な対応をする事」を支援者、特に学校関係者には理解してほしいと感じる事があります。また低学年から服用される場合も多く、副作用で食欲低下がどの程度成長に影響しているのか心配しています。服用中止の目途や時期についての考え方を知りたいと思いました。効果が得られないというお話もあったので、本人のコンディションなのか、薬の効果なのか、環境による影響なのか迷う事があり試行錯誤しています。

アンケート結果

⑤ 「成人発達障害と医療」 柏 淳氏

- 障害特性についてわかりやすいお話を有難うございました。ASDとADHDの症状や状態で同じような姿を見る事があり、状態が重なる部分もあると理解していましたが「近眼性」等ご本人の環境のとらえ方が違っている事が解りました。また、児童精神科や成人を対象にした精神科の現状もよく解りました。私は作業療法士として患者さんに関わる事もありますが相談支援専門員として福祉サービスの選択や病院探しをすることもあります。精神科の状況を知り、地域の医療機関とのつながりを作っていきたいと思いました。
- ADHD/ASDの認知の違い、行動の違いなどが良くわかりました。特に成人期に起しがちな症例がわかりやすく、当事者会の研修会でも機会があればお願いしたいと思う内容でした。（ADHDが目の中の事しか見えていないとか、ASDは関心のある事、気づいていることは先の事まで見通せる等は、腑に落ちました）診察室で沢山の当事者と向き合っていらっしゃるだけあると感動しました。当事者会に参加することがとても有用と仰ってくださった事が非常に嬉しかったです。最後のニューロダイバーシティの話もとても良かったです。
- 発達障害のある方の、世界の見え方が細かく説明があり、大変よく理解できた。また、発達過程で出来ないのではなく、遅れでありそれをどのようにカバーするのか、そのための支援にどうつないでいくのかを改めて考える機会になった。また、「近眼性」の講義はとても解りやすく勉強になった、有難うございます。
- ご講義ありがとうございました。都内にある児童発達支援・放課後等デイサービスに勤務しています。配信という形でお話を伺うのは2回目です。お話を伺って、まず感じたのは心理士として今の現場で何ができるのか？携わっている目の前のお子さんとそのご家族、取り巻く自分を含めた支援者や様々な機関との協働や連携にどのスタンスで関わるのか、靄のかかる現場で模索し言葉にならないモヤモヤを抱えていたこの5年間でしたが、その中にずっと光が差した心境になりました。小さな事業所の中でひとりひとりのお子さんが抱える事柄はとても大きくまた複雑で、それをとらえるべくさまざまな研修に通ったり事業所の児童精神科医からご指導を受けたりと近視眼的に動いていました。今回、成人期発達障害と医療から、自分の立ち位置を俯瞰する機会をえることで、ケースを見る視点や関わり方など、過度に肩に力を入れずに携わることができそうな気がしました。具体的に現場で何をするか？すぐに挙げることはできませんが、今できることはその土台を作るために柏先生のお話をさらに伺いたいと思います。
- ASDやADHDの方の世界の見え方や何に困っているのかわかりやすい解説を有難うございました。持ち合わせた特性と育ちの問題により二次障害が引き起こされて生きづらさを抱えている人は多いと思います。育ちの問題に寄り添う事が出来、癒し癒される人でありたいと思います。

アンケート結果

⑥ 「発達障害と地域連携」 本田 秀夫氏

- いくつかの自治体で働いている心理職です。自治体によっては、1歳半健診が地元の小児科の診療に頼る形となっており、3歳近くなって集団に入ってから発達についての指摘を受けてこられる方が多いです。講座のなかであった、長野県の認定医制度の全国的な拡充を望みます。見逃すということだけでなく、保護者がうちの子は大丈夫とお思いになり、その後が大変になるという点も問題のように思います。
- インターフェースのお話で共時的なものと継次的なものについて、ライフステージごとの横のつながりとライフステージをつなげていく縦のつながり（縦と横の連携）として理解しておりました。改めて今後自分の働く地域のインターフェースを考えると、自分の知識に偏りもありますし特定の継次的な部分が曖昧だと気づきましたので簡易構造評価をして地域資源の把握に努めたいと思います。
- Q-SACCSの話が聞けてとても良かったです。ただ東京は子どもトスカと大人トスカに分かれてしまい、Q-SACCSが使えるのか？23区が特別区のため各区で独自に取り組んでくださいと言われ体制整備が追い付いていないので、支援の引継ぎ連携が出来るのか疑問を抱いています。是非東京都精神保健医療課でQ-SACCSを23区の担当者が使えるように指導して欲しいと感じました。初診待機問題の解消問題も分かりやすくすごく良かったです。大人は脳波で診断するという怪しい病院広告が横行し被害に遭うケースが後を絶たないので、当事者会としても診療報酬の問題を含めて要望を出すヒントを頂けたなと思います。
- 様々なシートを使い、サービスや担当部署を可視化することで情報を整理することは、多職種が共通認識を持つこと、早期に対応できることにつながると感じました。小児科から精神科への移行については保護者からの相談を受けることがあり、的確なアドバイスができず悩み事の一つです。
- 支援の必要な子どもの保護者への、診断時期や満足度についての調査を元にしたエピソードが大変納得出来て良かった。受容については色々な過程を経るものでストレートには行かないことは理解しているが、支援者として何が出来るかを考える1つにもなった。これからも支援者として何が出来るかを考えながら動いていきたい。ありがとうございます。

アンケート結果

⑦ 「発達障害と司法」 安藤 久美子氏

- 発達障害と司法について、事例を用いてお話してくださったのでわかりやすかった。ニュースでは一部の情報しか報道されないが、その裏には何があるのか知ることが大事だと思う。発達障害が犯罪と結びつくというのは違うと思うが、そういった背景や理由を知ることが大事。受講して、改めて早期の気づきと支援が必要なのだなと思った。
- 医療関係者ではないのですが、とても分かりやすくお話してくださり理解できたと思います。「DBDマーチ」という事を今日初めて知り、児童福祉の職員として子どもたちへの適切な支援の大切さを身が引き締まる思いで聴きました。事例や写真を使ってくださり理解が深まりました。ありがとうございました。
- 司法に結びついた事例から学ぶことの大事さを実感しました。生活環境や対応によって症状が変化するため、自閉症スペクトラムの特性を再確認し、つながっている支援者側が成長期の子どもたちにマッチした環境を与えていないこともあるかもしれないということを常に検証する必要があると感じました。「大人は子どもたちに評価されている」ということを念頭に、「話してみよう」と思ってもらえる大人を増やしていくために、支援者としての立ち位置を伝えていきたいと思います。
- 発達障害と司法という難しい内容を、事例を交えて大変分かりやすく講義していただき勉強になりました。犯罪の背景に、発達障害の特性もあることが分かりました。犯罪というだけでかなり先入観を持っていますが、本来のその人のことをみていく、聞いていくことの大切さを学びました。普段の支援でも、自分が誤解していないか？立ち止まって考えてみたり、周囲の職員とも相談したりしながらその人のことをみていきたいと思いました。
- ASDの説明も良かったし、司法との関係も分かり易く、全ての物が頭に入りました。
- 知らないことが多く、発達障害を司法の観点から話を聞く事が出来参考になりました。具体的な事例も解り易かったです。
- 司法の立場より、発達障害を持っている方がどのような問題を起こしがちなかなど具体的な症例を交えて説明して頂き解り易かった。

アンケート結果

⑧ 「学習障害と周辺」 藤堂 栄子氏

- 「とめはねはらいなんて要らない！」など、日頃疑問に感じている点についての藤堂先生の歯切れの良い主張が大変気持ち良かったです。ありがとうございました。とても前向きな先生で、知らない情報がたくさんあった。支援者側として、情報を知らないと提供や提案もできないので、支援者側がいろんなツールがあるということを知っておくことが大事だと改めて思った。
- ディスレクシアの支援についてよく理解できました。「不便だけど、不幸ではない。」という言葉や、「早期発見早期対応」の重要性、「成功しているDXの共通性」など、とても参考になりました。医学的な診断と現場での評価の乖離が明確でわかりやすかったです。間違いやすいところも指摘されておられ学べました。
- 自分自身の学習困難と重なる部分があり、理解を深める機会になりました。様々な学習の仕方が開発されていることを知ることができて良かったです。まだ学校現場には浸透していない現実があり、苦しんでいる児童がいます。診断と支援の方法をしっかりと伝え、環境調整ができる体制を広げるためのリーダーシップを都の教育委員会にお願いしたいです。自治体間格差をなくし、今後どこの学校に通っていても、当たり前になることを期待したいです。
- 学習障害の方はあまり関わる事がなかったため、大変勉強になりました。できることを伸ばしていき、できないことを補っていくことは普段の支援でも大切にしていきます。また、先生のお話の中であった、住所の「港区」が「港凶」になっけていても、届いていたら良いのですというお話が印象に残りました。本当に、そうだなと思いました。全部が全部完璧でなくても、意味が通じたり言いたいことが分かったりすればそれでよいのだと、おおらかな気持ちをもっていきたい、そういう社会になると良いと感じました。
- LDの方への対応の現在を具体的に知ることができた。あらためてLDは環境調整が非常に大きな意味をもち、それゆえに教員の理解が大きな壁になっているように感じた。LDの方の難しさを実感できる体験機器の導入など、早期の対応が必要なのではないだろうか。車いす体験などはしているのに

アンケート結果

⑨ 「発達障害と二次障害」 成田 秀幸氏

- 見立ての大切さが大事なのだと理解できました。ことが起きた時に、これからどうするということの前に、児の発達特性やトラウマ(心のケガ)などに目を向けて寄り添うことを前提に考えなければならないという点が基本だということが、発達障害と共通しているということが理解できました。社会や地域などの繋がりの中で支援することの大切さや、一人の人として尊重することが大事だとわかりました。
- 医療的、福祉的はもちろんですが、人と人との繋がりが重要だということにととても感銘いたしました
- 支援を行っている中で、二次障害を抱えている方も多くいますが、なぜ二次障害にいたってしまうのかという理由や背景について知ることができ、大変勉強になりました。お話をうかがって、メンタル面のケアの重要性を感じました。言葉や行動を見て、誤解していたところも色々あったのではないかと思います。知識を得ることで、なぜそのような言葉や行動にいたったのか、考える材料としていきたいです。ありがとうございました。
- 臨床経験を根拠とした説明であり、非常に心に沁み込んできた。

アンケート結果

⑩ 「発達障害と当事者」 尾崎 ミオ氏、ソルト氏

- 早期療育、早期支援というが、「ふつうになれの呪い」よりも好きなことや趣味を大切にしている人たちが断然強いと感じているので、好き得意なものを増やしていくような支援をしたいなと感じた。発達障害を見下すような「今のままのあなたでは、社会に通用しないよ」と言うセリフにドキッとしました。発達障害に熱心な無理解者にならないようにしたいと思いました。ソルトさんの話もとても響きました、というのも私も発達特性があり、母が1歳の時に亡くなったため、乳幼児期に施設で育ち、職員からも実の父からも男尊女卑や虐待を受けて育ったからです。今思えば障害特性の上、愛着障害もあったため、私も人との距離感が掴めず、積極奇異だし、いじめや不登校も経験しています。若い成人期にはパーソナリティ障害となり、仕事の継続も難しく、とても生きづらかったです。今は発達障害の支援の仕事を見護師として行っており、この仕事を通じて、自分が発達障害だったのだと自分の過去や障害と向き合うことができます。そして、実父も私の特性を無理解なまま逝ってしまいました。人間関係のトラブルも発達支援の仕事を通じて自分を俯瞰して見られるようになりました。去る人は追っけないということ、私もそうしています。
- お話をお伺いしていく中で、私自身反省するところも多くあったように思います。熱心な無理解については、自分もそのような傾向があるように感じています。当事者の方からすると、見下されているように感じるという言葉も心に残りました。自分の普段の支援での言動、行動をふりかえる良い機会となりました。また、対談でもお2人のお人柄も感じられて楽しくも、色々と勉強になる内容でした。ありがとうございました。
- 当事者の経験、凹凸の悩み、環境との阻害等、心の痛みが伝わってきました。心に迫っていきました。
- 定型発達症候群もあるだけでなく、イライラしやすい人、心が折れやすい人、などASD以外のヒトでもいろいろおり。逆に高機能ASDのヒトの場合、自分も配慮することも必要と感じているが
- ソルトさんのお話しが印象に残りました。ミオさんとの対談形式も良かったです。

中間総括（１）

アンケートから見える課題及び改善点

①

研修開催については、土日で午前中という設定が好評で、平日フルタイムで働いている方の参加が可能であるという意見が多かった。午後からの講義も一部あったが、そこについては午前で終わる事が望ましい。1講義の時間が短い方が良いなどの意見も数人みられた。またコロナが明けたが、オンライン開催については殆どの受講者が賛同していた。自宅や職場など場所を選ばないで済むこと。ストレスフリーで受けられるなどは多くの意見があった。前回までは入るのに時間がかかったという意見があり、始まるまで事務局への電話での問い合わせもあったが、今年度はオンラインに慣れてなかったが、正夢の会の担当者が対応してくれたという意見一人のみだった。今回は進行についての意見もあり、スムーズで時間通りに運営されていたなど、講師の先生方への苦情も殆どなかった。

一方、昨年もあったが、後日配信、質疑応答の時間が欲しい、対面の方がリアリティが高く双方向の講義が望める等の意見も一部があった。また、有料でもいいのでもう一度過去の講座が見たいという意見もあった。しかしこれまでのオンライン開催に関する課題は、ほぼ改善され受講者側の意識も変わってきていると思われる。

中間総括（２）

②

参加者については、昨年度と同様相談支援研修は１００名を超す参加者があったが、医療機関向け研修は５０名から８０名程度となった。また、例年通り、参加者が申込者の７０％程度となり、ここ数年変わらない状況である。無料である事も関係し簡単に欠席してしまうと思われるが、ここに関しては無料で高いレベルの研修が受けられることは有り難く、今後も続けてほしいという意見が多く別次元の課題であると思われる。

医師、看護師、保健師の参加は、数はそれほど多くないが、医療研修にとどまらず相談支援研修も含めて参加者が増えている。これは福祉と医療の連携に繋がり、研修内容に工夫を重ね、今後の医療関係者の参加に期待したい。

開催に関する問い合わせもあり、今後も開催するのか、いつから開催されているのかなど、情報が行き届いていないような質問もあり、継続的に情報提供を行う必要がある。

③

実施内容については、概ね好評であり次回に期待する意見も多くあった。「これまで受けた研修は手応えのないものが多かったが、この講義は質が高くとても有意義な学びで、問題意識を持った講師の講演で共感が持てた」など、内容の質の高さや、講師の人柄から来る講義の厚みや解りやすさが好評を得ている。同じ講師、同じ講座での複数の講義の希望もあった。

課題としては、今回は初心者の感想が多く、講義の難易度や現場の中に浸透していかない現実の問題を感じる等、新しく得た知識をどう生かしていくか等、参加者の振り返りもあり、今後継続した研修への参加を進めていきたい。発達障害への誤解を解くためにも、より多くの人にこの研修に参加してほしいとの声も上がっていた。また、各階層の受講者に対しては、現状のレベルを維持しつつ、新しい情報が提供できるよう、講師との連携を図りたい。

中間総括（３）

④

講義資料を事前に送付しているが、受講者から講義前に目を通せる事、時間に余裕がある事から、講義の理解がより深くなる、また、資料で補足しながら学べるため、都度見直すことが出来、知識の定着に繋がったとの意見があった。

事務局からの事前送付は書面ではなくデータに変更し、リモートでの開催に加えて、研修開催の手順がスムーズになり、仕事量の軽減につながった。半年間で9回の研修を開催するにあたっては、準備や開催にかかる仕事量の多さが課題だったが、業務がルーティーン化した事、更に講師の方々のご協力もあり、連絡や事前のやり取りもスムーズになり、参加者の講座受講の満足度にも繋がっていると思われる。

⑤

来年度への希望も出ており、引き続きリモートでの開催を求める声が多かった。

講義内容としては今年度開催と同様にレベルが適切で、現在のテーマにあっており、内容も研修の目的にふさわしいものとして欲しい。具体的には、「大人の発達障害」「発達障害の基礎」「発達障害と虐待」「PTSD」「個別症例について困難事例」「LDについて、高校、大学、就職時期の支援」「発達障害の高齢期の支援」他、多くの希望が上がっている。

その中には、毎回新しい内容で、非常に学びになって有り難い。同じテーマで内容がupdateされているので、そのまま継続して欲しい。特に医療については、聞く機会が少ないので継続して欲しいとの意見が複数あがっていた。

このように継続を求める声や、より多くの課題もあがっており、今後の研修のあり方も考慮していきたい。